

日语听力鉴定试题集

浙江科学技术出版社

日语听力鉴定试题集

刘金林 编译

浙江科学技术出版社出版

浙江新华印刷厂印刷

浙江省外文书店发行

开本: 850×1168 1/32 印张: 5.75 插页: 1 字数: 192,000

1982年2月第一版

1982年2月第一次印刷

印数: 1—33,000

统一书号: 722.44

定 价: 0.40

封面设计: 徐景

41.5.965
19.5
C.2
前 言

本书系根据日本早稻田大学对外国留学生的入学试题编译的。

书中一九六六年度的试题是综合性的，其余即一九六七至一九七四各年度的试题，皆分初、中、高三级（本书仅取初、中级部分，高级部分待续）。

一般作为留学生，至少须取得中级及格成绩。中级及格者，入学后经补习考试达到高级及格程度，才具有上大学正课的能力。换言之，具有中级及格程度，可入大学先补习一段时间日语，再上正课；高级及格者，可免修日语，直接进入大学上正课。初级和中级试题的测试时间，皆规定为三十分钟。即在三十分钟内笔试完毕，答案全部正确者为笔试满分。

本书试题皆有针对性。在命题时，除考虑各种教材的各自不同阶段的要求外，还考虑到外国人容易误答的问题。因此，本试题集对日语学习者来说，既可作为鉴定自己学力的测试标尺，又可利用它作为教材资料。此外，本书也可作为日语教师命题或解题时的参考工具书。

本书除试题部分及日本小学校一至六年级学生学到的汉字表（简称「汉字表」）外，其余部分所使用的日语汉字并不规范，希读者注意参照本书附录的「汉字表」及「日本当用、教育、简体、繁体汉字与中国简化、繁体汉字对照表」应用。

本书常用惯用语部分内容，在编写时参考了有关书籍，特在此向有关单位及作者表示感谢。由于编译者水平所限，错误之处难免不少，恳切希望读者提出宝贵意见，以便改正。

编译者

目录

试题

问题(页)

答案及 参考译文(页)

一九六六年度	(一)	(八三)
一九六七年度	(七)	(八八)
初级	(七)	(八八)
中级	(二二)	(九〇)
一九六八年度	(一六)	(九四)
初级	(一六)	(九四)
中级	(二一)	(九六)
一九六九年度	(二六)	(一〇〇)
初级	(二六)	(一〇〇)
中级	(三一)	(一〇二)
一九七〇年度	(三六)	(一〇六)
初级	(三六)	(一〇六)
中级	(四一)	(一〇八)
一九七一年度	(四七)	(一一二)
初级	(四七)	(一一二)
中级	(五二)	(一二四)
一九七二年度	(五六)	(一二六)
初级	(五六)	(一二六)
中级	(六一)	(一二八)
一九七三年度	(六五)	(一二〇)
初级	(六五)	(一二〇)
中级	(七〇)	(一二二)
一九七四年度	(七四)	(一二五)
初级	(七四)	(一二五)
中级	(七九)	(一二七)

常用惯用语	(一二九)
-------	-------

日本小学校一至六年级学生学到的汉字表	(一七〇)
--------------------	-------

日本当用、教育、简体、繁体汉字与中国简化汉字对照表	(一八三)
---------------------------	-------

昭和四十一年度（一九六六年度）

I

1 つぎの文の（ ）に、漢字をいれなさい。

(1) () () の生活 () () や () () を、ありのままに

() () き () () わすのが () () だ。

(2) () () しい () () に () () きあげられた () () が、どんな

に () () ちつけようと、 () () して () () を () () げずに () () へ

() () んだ。

(3) () () は () () () () に気がつくど、からだを

() () こして () () い () () つぎでみつめた。

2 つぎの文の漢字に、ひらがなをつけなさい。

(1) 小説や教科書や流行歌や、さらにまた日常

生活における人々の行動の仕方などから、

哲学をくみとることができると。

(2) 教育は、不当な支配に服することなく、国

民全体にたいし直接に責任を負っておこな
われるべきものである。

(3) ゆがんだ産業界の現状を、一片の通達で是正

を期待するのは、あまりにも楽天的である。

36342

3 つぎのかたかなを、ひらがなになおしなさい。

プロセス ()
 ミ リ ()
 ホ ッ ク ()
 ジレンマ ()
 ア ヤ メ ()

II

1 つぎの文の [] のなかにてきとうなかなを一つずつ入れなさい。

このべん [] も四月になる []、さくらの花がさきます。日本人 [] だれでも、さく
 らの花 [] 大好きです。それ []、みんな郊外 [] さくら [] 名所 [] お花見 []
 行きます。お花見 [] いうの []、さくらの花 [] 見ながらお酒 [] 飲んだり、こち
 そう [] 食べたりすることです。郊外へ []、電車 [] バスなど [] 乗って行きます
 から、乗りものがひじょう [] こみます。しかしランシエアワー [] とき [] 運って、
 みんなとても楽しそうです。

2 つぎのことはのなかから一つえらんで、あとの文の [] のなかに入れなさい。

あげた いただいた くださった くれた もらった やった

わたしは、お正月のおこづかいで買った本を読んでから、おとうとに []
 []、おとうとは、わたしから [] その本をだいにしまっていたが
 ら、わたしが必要なときはいつでも貸して []。このあいだおとうと
 は先生にも貸して [] と言っていたが、先生はもう返して []
 [] はずである。

3 つぎの文の()のなかにある動詞をつかって、「——て」の形、「——た」の形、「——(よ)う」の形、そのままの形のどれかを↓の下にかいて、正しい言い方にしなさい。

日本に(くる↓)から来月でちょうど一年に(なる↓)が、その間に関西へ旅行したことがある。日本の宿屋に(とまる↓)と、いつも「さしみ」が(でる↓)ことになっているが、一度も(食べる↓)みる気にはなれなかった。大阪で道に(迷う↓)ときはどう(する↓)かと心配だったが、さいわい親切な大学生と一しよになったので(助かる↓)。その大学生が、今でも手紙のやりとりをして(いる↓)田中君で、これからも仲よくして(いく↓)と思っている。

III

1 つぎのことはのはんたいのいみのことばをかきなさい。

やさしい — ()
はじまる — ()
さいしょ — ()
じょうひん — ()
かなしさ — ()

2 あとの四つのことばの中から一つをえらんでその記号を()の中に入れ、同じいみの文を作りなさい。

(1) 雨がたくさんふっています。|| 雨が()ふっています。

A ざあざあ B ぼつぼつ C ばらばら D ぞくぞく

(2) 山田さんはあちらこちらを見ながらゆつくりあるいています。|| 山田さんはあちらこちらを見ながら()あるいています。

A てくてく B ぶらぶら C ばらばら D ちょいちょい

(3) このくつは足にちょうどいいです。|| このくつは足に()です。

A きっかり B はつきり C びったり D しっかり

(4) ちようちようが花の上をとびまわっています。|| ちようちようが花の上を()とんでいます。

A はらはら B ひらひら C ほろほろ D くらくら

- (5) その子とはとつぜん大きな声で泣きだしました。|| その子とはとつぜん () 泣きだしました。

A しくしく B があがあ C かあかあ D わあわあ

3 正しい文に○をつけなさい。

- (1) いろいろ考えましたが、どうしてもわかりません。
いろいろ考えましたが、どうしてもわかりません。
いろいろ考えましたが、どうしてもわかります。

- (2) あの店では何にも売っています。
あの店では何でも売っています。
あの店では何も売っています。

- (3) 田中さんはまだ一度も来ます。
田中さんはまだ一度も来ません。
田中さんはまだ一度も来ましょう。

- (4) そんなことがわからないのは非常識だよ。
そんなことがわからないのは不常識だよ。
そんなことがわからないのは無常識だよ。

- (5) あの人は父の兄、けっきよくわたくしのおじです。
あの人は父の兄、とうとうわたくしのおじです。
あの人は父の兄、つまりわたくしのおじです。

4 つぎのじゆく語から一字をとって同じいみになることばをかき、() の中にそのよみ方をかきなさい。

〔例〕 食事する (食) べる (たべる)

- (1) 通過する () る ()
延長する () ばす ()
震動する () える ()
指導する () く ()
会見する () う ()

5 つぎの文の ——— の部分のいみと同じものを下の中からえらんで ○ をつけなさい。

【例】 かぜをひかないように気をつけた。

A しんばいした B けいかくした C ☒ ちゅういした D はんだいした

(1) 気にいった色がない。

A あかるい B すきな C きれいな D おもしろい

(2) あの人は気がなじかい。

A やさしい B すくおこる C あわてものだ D のんびりしている

(3) 雨なのできょうの映画は気がすすまない。

A しすかだ B しんばいしない C 行きたくない D さびしい気がする

(4) うわさなどは気にしない。

A 知らない B しんばいしない C わからない D 言おうと思わない

(5) あいつは気にさわることばかり言うやつだ。

A おもしろい B はらがたつ C たいくつな D きびしい

IV

つぎの文を読んで質問に答えなさい。

昭和三〇年に五、〇二九万人だった都市人口は、四〇年には六、六九三万人と、一〇年間で一、六〇〇万人以上もふくれあがった。しかも、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に集中したため、住宅、上下水道、交通などの事情の悪化、産業公害の発生など、いわゆる過密問題がおこり、その対策がやかましく論議されるようになった。

だが、こうした人口移動にともなう、とりのこされた辺地にも、新しい問題がおこっている。昨年の国勢調査を見ても、全国の町村で、人口がふえていところはほとんどない。とくに、人口二万以下の町村は、毎年二パーセント程度人口が減りつづけている。しかも、過剰する人口の大部分が三〇歳までの若者なので、残るのは老人ばかりである。これは町村にとって、致命的な問題である。田畑を耕すのは老人の仕事となり、年々荒廢地がふえていく。いざ出火といっても、消防活動も思うにまかせず、損害を大きくする。むろん住民の所得は減る一方で、したがって税収も減少するところから、町村財政も苦しくなり、保健衛生や教育にさえ、手が回らねることになる。こうして、住民の社会生活はしだいに破壊されつつあるといった状態が、いたるところに見られるのである。

質問 (1) 大都市と町村の人口は、それぞれどのように変化したか。

質問 (2) 人口移動の結果、大都市の住民の生活はどのように変わりつつあるか。

質問 (3) 人口の移動にともなっておこった新しい問題が、町村にとっては致命的である理由は何か。

質問 (4) 右の文を読んで、人口移動はなぜおこったか、自分の考えをかきなさい。

昭和四十二年度（一九六七年度）

その一（初級）

一、つぎのかんじのよみかたをひらがなで書きなさい。

(1) () () ()
主 人 は 洋 服 で で か け ま し た。

(2) () () ()
毎 朝 九 時 に い き ま す。

(3) () () ()
く ろ い 上 着 を () 着 て い ま す。

(4) () () ()
夕 方 か ら 大 雨 に な り ま し た。

(5) () () ()
地 下 で 食 料 品 を か い ま し た。

(6) () () ()
入 口 に 四 人 い ま し た。

(7) () () ()
新 聞 に 注 意 し て い ま す。

(8) () () ()
近 く に 水 道 が あ り ま せ ん。

(9) () () ()
京 都 の 中 心 は ど こ で す か。

(10) () () ()
車 で 駅 に つ き ま し た。

二、 つぎの上にあることばにつづくことばを下からさがして、そのすうじを（ ） 8

の中に書きなさい。

か	さ	を	()	()	1	う	ける
く	つ	を	()	()	2	う	つ
こ	は	ん	を	()	3	こ	ぐ
し	け	ん	を	()	4	さ	す
し	や	し	ん	を	5	し	め
た	ば	こ	を	()	6	す	う
ネ	ク	タイ	を	()	7	た	べ
ピ	ア	ノ	を	()	8	は	く
ふ	え	を	()	()	9	ひ	く
ボ	ト	を	()	()	10	ふ	く

三、 上の文の線^{せん}をひいたことばと反対^{はんたい}の意味^{いみ}のことばを下の文の（ ）の中に書きなさい。

- (1) 日本語がじょうずです。日本語が（ ）です。
- (2) ゲームにまけました。ゲームに（ ）ました。
- (3) そのへやはひろいでしょう。そのへやは（ ）でしょう。
- (4) 本をかしました。本を（ ）ました。
- (5) 買いものがべんりです。買いものが（ ）です。
- (6) 戸をあけましょ。戸を（ ）ましょ。
- (7) その本はあたらしいです。その本は（ ）です。
- (8) 手紙を見てあんしんしました。手紙を見て（ ）しました。
- (9) バスのほうがはやくつきます。バスのほうが（ ）つきます。
- (10) この問題はむずかしいです。この問題は（ ）です。

四、つぎの二つの中の一つだけほかのものとうちがうことばがあります。それに×をつけなさい。

例 ひがし にし みなみ ×みぎ きた

- (1) きのう あした おとし あさつて おととい
- (2) よむ ねる いう きく かく
- (3) うれしい くるしい かなしい くわしい たのしい
- (4) たべる あるく およぐ にげる はしる
- (5) から かす うる おきる かりる

五、つぎの文の のところにひらがなを一字だけ入れなさい。

- (1) トンネルを出 と、海が見えました。
- (2) きみがそ 言 なら、ぼくはやめます。
- (3) 学校を休 ではいけません。
- (4) うちに帰 たら、だれもいませんでした。
- (5) 上田さんが来 ば、ぜんぶで十人になります。
- (6) そこを動 てはいけません。
- (7) 外国へお 金 を送 たら、ぎんこうのほうがいいです。
- (8) 着物を着 と、りっぱに見えます。
- (9) すぐ走 ば、間に合うでしょう。
- (10) 日本語の時間に英語を使 たら、しかりました。

六、つぎの二つの文に書いてあることを一つの文にして の中に字を入れなさい。

- (1) これは英語の本です。この本をきのうデパートで買いました。
これはきのうデパートで 本です。
- (2) 林さんは大学生です。林さんは電気の勉強をしています。
 の は、電気の勉強をしています。

- (3) 電車に乗りませんでした。お金がありませんでした。

電車に乗らなかったのは、お金がなかった

--	--	--	--	--

。

- (4) 山下さんはうちへ帰りました。わたしはそのことを聞きました。

山下さんはもううちへ帰

--	--	--	--	--	--

。

- (5) 田中さんはおしやさんからくすりをもらいました。田中さんはそのくすりを山田さんにのませました。

田中さんはおしやさんから

--	--	--	--	--	--

 を
山田さんにのませました。

で、つぎの文を読んで、そのあとに書いてあることが正しければ○、まちがっていれば×を()の中につけなさい。

- (1) 土よう日にしけんが終わったら、田中さんはひまになります。

- () 田中さんはいまひまです。
() しけんはもう終わりました。
() 田中さんはいまいそがしいです。
() しけんは土よう日に終わります。
() 田中さんはしけんがあるのにひまです。

- (2) わたしはまだ宿題^{しゅくだい}を半分しかやっていませんから、きょうはえいがを見(な)いでうちで宿題をやります。

- () わたしは宿題を半分やりました。
() わたしはえいがを見てから宿題をやります。
() わたしは宿題をやってからうちへ帰ります。
() わたしはきょうはえいがを見ません。
() わたしは宿題を少しもやっていません。

(3) 会社の社長をしている父は、おおぜいの人にやめられてこまりました。

() 父が会社をやめました。

() 社長がこまりました。

() おおぜいの人がこまりました。

() おおぜいの人が会社をやめました。

() 父はおおぜいの人をやめさせました。

(4) 山下さんは田中さんに大川さんから聞いたおもしろい話をしてあげました。

() 田中さんは大川さんにおもしろい話をしてもらいました。

() 山下さんは大川さんからおもしろい話を聞きました。

() 大川さんは山下さんにおもしろい話をしました。

() 山下さんは田中さんからおもしろい話を聞きました。

() 田中さんは山下さんにおもしろい話をしてもらいました。

一、()の中に漢字を書き入れなさい。

二、次のことばの使い方の正しい文に○、正しくない文に×をつけなさい。

- I さすがに {

A	きょう遊びに行くのはさすがにです。
B	さすがにあの人は英語がじょうずです。
C	あの人の英語はさすがにでしょう。
D	さすがにきょう遊びに行きます。
E	北風の冬はさすがに寒い。

- 2 まさか {
 A それはまさかでしょう。
 B まさか家が火事になります。
 C あの犬がさかなを食べるのはま
 D まさかあの人がそんなことを。
 E まさか困ります。

- 3 まんまと {
 A まんまと千円もうけた。
 B まんまと千円そんした。
 C まんまと七時に起きましよう。
 D 七時に起きたのはまんまとだった。
 E まんまといっばいくわされた。

- 4 もともと {
 A あの人は頭がいいもともとです。
 B あの人はもともと試験に落ちました。
 C あの人は試験に落ちるのがもともとで
 D もともとあの人は頭がわるい。
 E もともとあの人は頭がいい。

- 5 ふと {
 A ふと家を照いでした。
 B ふと家から手紙が来ました。
 C ふと遊ぶことにしました。
 D ふと行きましよう。
 E ふと雨が降りだしました。

- 6 ーに恵まれている {
 A あの人はおかしを子供に恵まれている。
 B 日本は温泉に恵まれている。
 C あのへやはいすに恵まれている。
 D 日本は火事に恵まれている。
 E あの人は才能に恵まれている。

- 7 そつと {
 A そつとへやを出ていきました。
 B そつとから帰りました。
 C 虫の声がそつとです。
 D ラジオをそつとにしてください。
 E そつととしておいてください。